

特集

シルクよもやま新春座談会

新しいかたちに生まれ変わった「岡谷蚕糸博物館」が人気です。実際に稼働する製糸工場が見学でき、学びや体験の感触も鮮やか…おかやの真価と魅力を発信する現在進行形の博物館として、好評を博しています。

そこで、新年号では、おかやの宝、シルクと蚕糸博物館を、座談会のテーマとしてみました。宮坂照彦宮坂製糸所社長、高林千幸蚕糸博物館館長、今井竜五市長が、蚕糸の歴史、文化、先人たちの遺業、継承の意義や新たな価値の創造と発信、夢について語ります。聞き手は、岡谷駅長の中村麻紀さん。市の玄関口で働く中村駅長の目に、おかやはどう映っているのでしょうか?…どんな話が飛び出すか、興味津々の「おかや再発見」トーク、はじまりです。

岡谷市の新たな展開



岡谷市長 今井 竜五

新年おめでとうございます。市民の皆様には、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、大雪や土石流災害、御嶽山の噴火、長野県神城断層地震など、自然災害が続いた年でありましたが、岡谷市では、岡谷市看護専門学校の開校、新岡谷蚕糸博物館―シルクファクトおかや―の開館、新消防庁舎の建物完成など、明るく嬉しい話題の多い年でもありました。

迎えました新年は、新内閣のもと、経済対策、少子化対策等がさらに強化され、国民生活が安定的・継続的に発展できるよう期待し、そして、災害のない平穏な年となることを願うものであります。

岡谷市におきましては、新岡谷市民病院の開院、諏訪広域消

防の一元化及び諏訪広域消防本部、消防指令センター、岡谷消防署を併設した新消防庁舎のオープン、諏訪湖周クリーンセンターの工事進捗など、重要施策が新たな展開を見せる大切な年となっております。

第4次岡谷市総合計画後期基本計画の2年目として、重点プロジェクトであります「たくましい産業の創造」「輝く子どもの育成」「安全・安心の伸展」を柱とし、国の動向を注視しながら、知恵を出し、汗をかきながら、市民福祉の向上とまちの活性化に全力で取り組んでまいります。

将来都市像として掲げた「みんなが元気に輝く、たくましいまち岡谷」の実現を目指して、市民の皆様とともに、将来に夢と希望の持てるまちづくりを進めてまいりますので、引き続き、特段のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年が、市民の皆様にとりまして、輝かしく、幸多き一年となりますよう祈念申し上げます。新年のあいさつといたします。

平成27年 元旦



市長を囲んで。向かって市長の右から時計回りに宮坂社長、高林館長、中村駅長
中村さんは…
県下JR駅初の女性駅長として、昨年、岡谷駅に着任。以来「歩きたくなるまちへの第一歩は駅づくり」と、岡谷駅の印象アップに努めている。昨夏は、蚕糸博物館オープンに合わせて、駅コンコースに紹介コーナーを設置。オリジナル地図の配布、タブレットを使った道案内などは現在も続いている。長野市出身。

【誇りのよびこみ】

中村 蚕糸博物館開館から、半年が経とうとしています。多くの人をお迎えし、



さらに今年も、新しい博物館の歴史がつくられていくことだと思います。

ます。きょうは、シルクによせて、博物館によせて…、熱い思いをお聞かせください。

市長 以前の蚕糸博物館は、昭和39年の開館です。諸先輩方が、糸



都岡谷の輝かしい歴史を顕彰し、貴重な資料や機械類を保存して

こうと、戦時中より準備を進めて建ててくださいました。新しい蚕糸博物館は、旧館の遺産とともに、先人の思いも継承しています。

高林 手仕事に始まった糸取りを、産業へと結びつけていった製糸技術の開発と改良により、岡谷は糸都として発展しました。新しい博物館は、

「これが機械です、資料です、歴史はこうです」というだけではありません。宮坂製糸所の動態展示により、

先人の努力や工夫を伝えていけるので、来館者が納得し、



感激してください。

中村 見て「なるほど」で完結してしまふのが一般的な博物館だと思うのですが、蚕糸博物館は、大きく違っていますよね。静態展示からの流れで動態展示を見られる、つながりもとてもいいと感じます。

宮坂 昨年は、宮坂製糸所にとって、



大転換のすばらしい年となりました。市長、館長はじめ、市民のみなさんからも「工場が併設されて、博物館の価値が上がった」と、おほめいただき、とても光栄でした。今年もさらによい年としていきたいです。

中村 オープンから3か月で、来場者2万人を達成するなど、蚕糸博物館をたくさんの方が訪れています。さらにこの先の集客に向けては、

どんな仕掛けをお考えですか。高林 常設部分であっても、時節に合わせて展示を変えるなど、すべての面で変化が必要ですが、企画展にはとくに力を入れ、来るたびに「新しいものに出会えるな、魅力が増しているな、また来てみよう…」と思っていただけのように充実を図ります。

市長 市民のみなさんが、蚕糸博物館の再開を待っていてくれました。改めて岡谷人の誇りや自信のよりどころなのだと感じました。平成19年、市内15の製糸関連施設が、近代化産業遺産に認定された際の表彰会場では、横浜市の港湾局長さんが「横浜のまちの発展は、岡谷の生糸のおかげです」と、声をかけてくださいました。市外でも、そうした



糸都おかのやの歴史をわかりやすく



糸をとる工女さんたち

歴史が語り継がれているのだと知って、うれしく感じたものです。蚕糸博物館では、日本の近代化に貢献した「おかのやの歴史」を知ることが出来ます。今のわたしたちのくらしの根底に、そうした歴史のあることを、あらためて市民のみなさんに知ってほしいと思います。歴史を知ること、このまちに住んでいることに喜びが見いだせる：蚕糸博物館は、そうした役割をこれからも果たしていくと信じています。

【蚕糸博物館の使命】

高林 資料の収集、保存、展示、研究にとどまらない生きた博物館として、わたしがいちばん重要と考えているのが、教育への貢献です。子どもたちが、養蚕からシルクまでをトータルに学べるこの環境は、岡谷ならではのものです。先人たちの苦勞や技術、日本の近代化に果たした役

割や産業の歴史を勉強すると、郷土愛が育まれ、自分たちで育てたカイコから、生命の尊



さも学びます。興味を持って学んだことは、大人になっても残るんですね。

市長 岡谷の子どもたちは、カイコに平気で触れますよね。手に持って「かわいいね」とやるわけです。それも、歴史をつないでいる表れかもしれないですね。



かつて、わたしの姉も、東京から子どもを連れて帰省し、旧蚕糸博物館を訪れていました。子どもの夏休み

の一研究に、カイコの観察を選んでのことです。ふるさとを離れても、養蚕や製糸のまちで育ったDNAが刻まれているのでしよう。そうした気持ちや誇りを大切に紡いでいかなければと思います。

宮坂 製糸を通じて学べることは、

生物、化学、経営、歴史など、切り口も多いですし、それぞれに奥が深いので、子どもや成人、ま



た高齢の人にも、博物館を生涯利用し、学びに役立てていただきたいですね。

市長 そういえば、「昔、製糸場で働いていた」というおばあちゃんが家族と来館してくださったとか。糸取りをされたそうですね。

高林 機械に触ったのは、60年ぶりとのことでしたが、手が憶えているのでしようね。多条線糸機の前で「できるかねえ」と車イスからやっとなつたのに、鮮やかな手さばきで作業し始めると、杖もお嫁さんに預けて「この小枠は、ちよつと速度が遅いねえ」と(笑)。ご家族も驚いて「家では、寝たり起きたり…、こんなにいきいきした姿は見たことがない」とおっしゃっていました。

市長 身体のなかに、歴史を受け継いでくれているんですね、尊敬します。蚕糸博物館で、こころに響く出会いや体験をしていただけのこと、何よりうれしいことです。

中村 小さな子どもさんから、昔を

懐かしんで訪れる年配の方まで、年代を問わず楽しめるのが蚕糸博物館の魅力ですね。

【ものづくりの原点】

市長 ご存じの通り、岡谷の基幹産業は製造業ですが、精密業の発展も、超精密加工技術も、製糸の積み重ねのうえにあるわけです。蚕糸博物館では、年代を追って製糸機械の進歩が見取れます。新たな技術を開発し、機械の効率を上げ、産業を盛り上げていくという構図は、まさに今の「ものづくり」に通じる、バックボーンだと感じます。

高林 糸を取るようすを見たお客さまは「どこに糸があるのですか、見えますか」とおっしゃいます。繭から取り出した1本の糸の太さは、10〜20ミクロンほど。そんな超極細な糸を、より合わせ長く均一につなげて



何本もの細い糸がより合わされて…

50ミクロンほどの糸にする、これが製糸技術なわけですね。岡谷では、明治時代からこうした微細加工を工業的にやっていたのですから、当時から精密が根づいていたというこ

ともできますね。戦後、機械精密工業に、スムーズに転換できたのも、製糸で培った精密技術があったからですよ、とお話しさせていただいております。

中村 「糸はどこ？」と、わたしも身を乗り出してしまいました。蚕糸博物館をご案内いただいて感じたのは、隔たりのない展示による躍動感です。ショーケースに入っていると、物理的にというだけでなく、感覚的にも距離ができてしまうのですが、壁がなく目の前で直に見て感じることもできるので、当時のようすを想像し、ぐつと興味も深まりました。

宮坂 ちよつと近すぎかなと、はらはらすることもありません。見られることに抵抗が少なくなっているようなので、それについては、ほっとしています(笑)。



高林 フランス式線糸機、諏訪式線糸機とも、現物は、ここにしかないたいへん貴重なものです。富岡の世界遺産に類するものでもあり、本来なら、ケースに陳列すべきかもしれませんが、ケースに入れてしまうと、



金属の質感や機械そのものの雰囲気や伝わらないと思いい、オープン展示を決定しました。

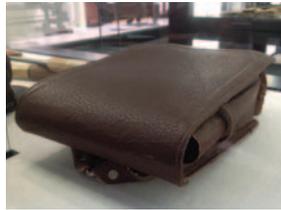
市長 魅力的な展示となり、よかったですと思います。もちろん、触って壊されてしまったら困りますので、だいに守つていこうという気持ちでご覧いただきたいですね。

中村 蚕糸博物館の魅力がたくさん出てきましたが、ほかに、こんなところも見てもらいたい、実はこんなところがおもしろいんです、といった情報があれば、お教えいただけますか。わたしは、シルクからランドセルがつくられているというのが意外で、印象に残りました。

高林 絹擬革は、わたしの人生を変えた1品でもあります。試験研究機関に就職した年、岡谷の博物館に調



無音絹歯車



絹擬革でつくられたランドセル

査にきて、絹歯車を見つけ、衝撃を受けました。絹の柔らかい、美しいというイメージと工業部品の歯車は、結びつかないでしょう。聞けば、絹を固めて利用しているとのこと、その発想の転換に舌を巻きました。そんな経験から、豊かな発想力によって、思いもよらない突破口が開くという、ものづくりの精神をくみ取っていただければ、と小さなコーナーを設けてみました。

宮坂 動態展示では、上州式と諏訪式の糸取りが、やはり見どころだろうと考えます。両繰糸機による伝統の技は日本の製糸業の原点です。宮坂製糸所では、昭和3年から諏訪式で繰糸をしてきましたが、上州式は、平成になって入れたもの

です。導入を決断していなければ、現在の動態展示も、寂しいものになっていたと思います。上州式と諏訪式ともに活用してきたことは、わたしの製糸業人生における一番の幸運です。そのことは、一方で、明治初期に開発された両方式が、いかにすば



諏訪式と上州式が左右に見比べられる

しいものだったかを証明するものでもあります。

市長 飾りものでなく、現役であること、産業を生む工業技術そのものとして、製糸が息づいていることに価値があります。今の岡谷につながっているんですね。

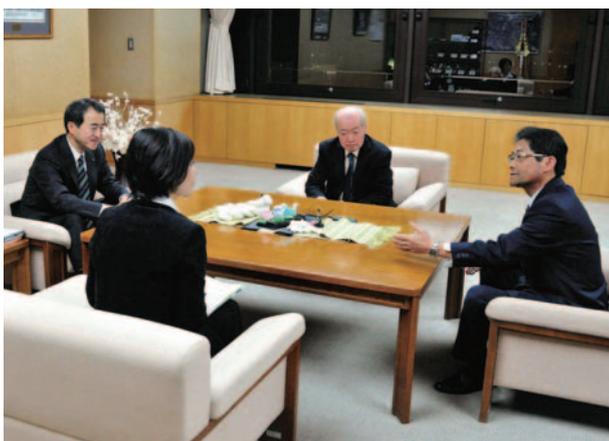
高林 製糸は、過去の産業ではない、ということ。市内企業の経営者と話すと、製糸業に敬意を持っているのが伝わってきます。先人の英知や努力を学ぶことは、生きる力を学ぶこと、これからのものづくりにも応用で



きる、ということです。未来に羽ばたく子どもたちが、歴史のなかから何を学ぶかで、日本の将来が変わってくると思います。先人からのメッセージを五感で吸収し、大いに意欲をかき立てて、社会で活躍してくれることを望みます。

宮坂 わたしが社会人になったのは、精密機械工業が活況を迎える時代でしたので、親の製糸工場を継承しなければ、という境遇を残念に思っただけです。従業員の女性が、みんなおばあちゃんに見えましたし(笑)。それが、いつのまにか深みにはまり、こうして、博物館で動態展

示をさせていただくようになったのですから、不思議なものです。
市長 昨年、経済活性化講演会にお招きした池上彰さんがこうおっしゃっていました。「これから若者が持たなくてはいけないのは、世界に飛び出す気概、国際感覚、多様性を認めるところ、この3つです」と。なるほどとお聴きしながら、「そういえば、岡谷の製糸家、経営者たちは、明治のころからそうした感覚を持っていたではないか!」と気づかされました。ものづくりの原点を示す動態展示には、真実を伝える力があります。たとえば、就職を前にした青年世代が訪れば、仕事や人生のヒントを与えてくれるのではないのでしょうか。



中村 岡谷の製糸には、歴史があるというだけでなく、先人の思いが凝縮されているんですね。だからこそ、伝わるものがあり、考えるきっかけになるのでしょうか。博物館に、いろんな魅力が詰まっていることに感動しました。

【にぎわい創出の起爆剤】

市長 蚕糸博物館には、まちのにぎわいをつくり出す中核施設になってほしいと考えています。文化を核にしたまちづくりにおいて、対外的には、たくさんの人を岡谷に呼びこむ一方、市民のみなさんには、蚕糸博物館のさまざまな財産を、じょうずに利用して、子どもさんの学びや夢づくりを生かしてもらいたいと思います。

宮坂 人が集まる施設、核となる施設の盛り上がりにより、相乗効果が波及し、商業や観光も振興すると思います。

中村 岡谷は、自然豊かで、コンパクトなまちのよさがあつて、住みやすいと思うのですが、外からの人をお



迎えることにあまり慣れていないと思いますが、訪れる人が増えていけ

ば、おもてなしの感覚も身につけて、まち全体が変わっていくと思います。岡谷の魅力を点から線へつなげるアプローチが求められているなか、昨年、レンタサイクルを用意されたのは、すばらしい取り組みだと思います。駅の利用者にとって、アクセスの改善は、大きなプラスです。

宮坂 観光といえば、かつては、温泉か名所旧跡めぐりでしたが、最近、新しい価値や魅力を掘り起こす、というふうなものに変わってきていますね。

市長 産業観光ということばが使われるようになって、一昨年、岡谷市でも「全国産業観光フォーラム in おかや」を開催させていただきました。蚕糸博物館は、訪れる人の知的好奇心を満足させるすばらしい観光資源ですので、岡谷の産業観光の拠点となるよう期待しています。



全国産業観光フォーラム in おかや



高林 体験から生まれる満足感が、旅を豊かにするからでしょうか。最

近は、近隣のホテルや旅館からも新しい目玉と一目置かれるようになり、お客さまをご案内いただいています。

市長 市内の企業に協力をいただき、超精密加工をはじめとするものづくりの現場を見学するしくみも整ってきています。おもしろい観光が生まれつつありますね。

【新たな試みと展望】

宮坂 いずれにしても、これからがだいじなのだと思います。

市長 ソフト的にもハード的にも、成長する、発展する施設であるように、みんなで知恵をしばらくなくてはいけません。「灯台もと暗し」で、地元にいると近すぎて足下の宝に気づかないこともありますので、内外よりアドバイスをいただき、広い見識のもと、宝に光を当てていくことを考えましょう。

宮坂 みなさんの知恵を拝借し、工場として、機械稼働率を上げていきたいです。繭の確保をどうするか、糸の利用をどう拡大させていくかなど、課題はありますが、繭については、三沢区が養蚕を始めてくださって、心強く感じています。

中村 歴史を知り、展示を見て、生糸について理解できた、という満足のあとに、博物館製のシルクに触れられるといいなと感じました。興

味を持ったからこそ、糸がどんなふうにご利用されていくのか、行き先や「かたち」が知りたいと…。女性にとつて、シルクはあこがれですし、手にすると、よさがもつと伝わるのではないのでしょうか。

宮坂 シルク岡谷の時代、製糸は生業でしかなかったのですが、シルクの魅力を感じて人は、いなくなつたらうと思えます。しかし、糸の品質向上や新しい素材づくりに向けられた創意工夫が、その後のものづくりに生きたおかげで、豊かな今がありますので、これからは、シルクに親しみ、シルクを好きになって、シルクの魅力のわかるシルクのまち岡谷になるといえると思います。博物館がその役割を果たしていかなくてはなりませんね。

中村 発信力が高まれば、よりアピールできると思います。目で見てよかつたね、次の段階に、手で触れ、肌で感じる事ができれば、感動が違ってくると思います。それもビジネスチャンスになるかもしれないです。

高林 桑を食べたカイコが、糸を吐いて、繭を作つて、それで生糸をつくる…という連続性を、知らない若い人が多いです。博物館では、養蚕か



館内にあるショップ



ら糸までをストーリーとし、簡易的な機織り体験やまゆちゃん工房でのワークシヨップも含めて、理解を深めてもらえるように運営していますが、いずれは、宮坂製糸所で生産された糸に染色を施し、機織りをして製品となるまでを工程とし、トータルに見ていただけるようにしたいですね。現在はまず、大勢の声を聞き、実績を積み上げて、ニーズにあった展示の方向性を模索していく段階と思っています。

市長 このネクタイ、メイド・イン・おかやです。ところどころに節のある「あし絹」の味わいがいいでしょう。締めやすさも絶品で、何本も持っています。ここぞというときには、これ！…愛用しています。

シルクをもっと身近に、と商工会議所が音頭を取り「岡谷絹」というブランドを立ち上げました。このネクタイもその製品です。富岡製糸場でも、岡谷でつくられたシルク製品が、おみやげとして販売されているのですよね。

宮坂 はい、好評のようです。富岡

で販売している製品は、産地にもこだわり富岡産の繭を使っていきますので、富岡と岡谷のコラボ企画になります。

市長 「上州から信州そして全国へ」は、

経済産業省が掲げた製糸近代化産業遺産のキャッチフレーズですが、姉妹都市の富岡市が世界遺産になった今こそ、上州のにぎわいを、信州で受けるべき時、と思います。蚕糸博物館のオープンにより、流れは生まれつつあると感じていますが、岡谷が独自で発信するのは別に、信州をシルクで結び、県全体で売り出していく「信州シルクロード構想」：これはわたしの勝手な命名ですが、県内の市町村へ連携を呼びかけているところです。糸都岡谷、蚕都上田、信大繊維学部、諏訪の片倉館、大きな製糸工場



で知られる須坂・駒ヶ根など、信州各地にシルクの財産が詰まっています。

中村 最後に、これからの夢や目標を教えてください。

宮坂 遣伝子組み換え技術の応用により、品種の掛け合わせではできない新しい繭が生まれ、特徴ある糸の開発も進みました。発光するシルクは、洋装のみならず和装の世界からも注目を集めています。さらに、



分野を限定することなく、製糸の可能性を広げていきたいですね。

最先端のチャレンジをしていくことが、伝統を守っていくことにもつながると思っています。

高林 岡谷が、最先端のメッカにならなければいけないですね。岡谷でしかできないこと、宮坂製糸所にしかならない技術で、新分野を開拓し、岡谷のものづくりに、また博物館の動態展示にも生かしていただければと思います。

市長が先ほどおっしゃった県内ネットワークと合わせて、富岡、八王子、横浜など、岡谷の製糸と関連のある都市の博物館とも連携し、交流や情報交換するなかで、ともにシルク文化を広め、博物館の魅力づくりをしていきたいと考えます。

中村 岡谷駅としても、観光受け

入れの玄関口として、蚕糸博物館のPRを含めた岡谷の魅力発信をお手伝いできればと思います。

宮坂 アクセス面でいうと、「商工会館入口」の信号名を、「蚕糸博物館入口」にしていただけで、よかったです。

市長 商工会議所の英断により変更になりました。一緒に盛り上げようという思いがあります。観光・商業の振興の面でも、博物館の果たす役割は大きいということです。岡谷の歴史や誇りを継承する蚕糸博物館を、わたしたちが有効活用していくことは、おかやの未来に光を当てていくことになります。ものづくりの原点として情報発信し、蚕糸博物館の価値を高めながら、よいまちづくりを続けてまいりますので、ご協力をお願いします。

(敬称略)



今年もよろしく申し上げます!